

令和元年度 第3回 南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会 会議録

日 時 令和元年 11 月 18 日（月）午前 9 時 30 分～

場 所 福野庁舎 201 会議室

出席者 ○委員 7 名

高山純一委員（委員長）

松本久介委員（副委員長）、

岡島奈美子委員、西村大仁郎委員、尾田慎一郎委員、岡部智美委員、

浦井啓子委員

<欠席> 浅田直彦委員

○事務局 5 名

柴市長政策部担当部長、石崎行革・施設管理課長、

森施設再編係長、山田副主幹、荒井副主幹

（開会）午前 9 時 30 分

【石崎行革・施設管理課長】

部屋の時計が 30 分になりましたので始めさせていただきたいと思います。

それでは、開会にあたり高山委員長からご挨拶をいただきます。

よろしくお願いします。

【高山委員長】

おはようございます。朝早くからありがとうございます。おそらく日本の国の人口がどんどん減っていくのは皆さんご承知のとおりですし、今後 20 年後、40 年後、20 年後は僕も生きているかもしれないですけど、40 年後にいないのは確実なので、そんな先のことを心配する必要は無いのかもしれませんが、子どものこととか、まだ孫はいませんが、孫が産まれたとして孫のことを考えれば、やはり日本の将来のことは非常に重要だと思っています。南砺市は私も親戚が何軒あるのかな、1 軒 2 軒 3 軒、お婆さんのうちが 3 軒ありますので、そういう意味では他人事では無いと思っています。4 町 4 村が合併して、この間からの資料説明を聞いておりますと、ものすごい公共施設の数がある。これは半減しないといけないというのは、皆さんご承知のことなのですが、では、どうやって半減するかというと非常に難しい問題であると思っています。でも、このままいくと北海道の Y 市の二の舞になることは目に見えていますので、これはもう南砺市だけの話ではなく、全国各市町村の話だろうと思います。非常に厳しいのは分かっているのですが、決断してやり切るしかない。みんな、不便になるところは我慢しながら、協力しながら、まちを支えていかななくてはいけないのではないかとと思っています。今日は第 3 回目ということで、ようやくと言ったら事務局に怒られるのかもしれませんが、財政シミュレーションの結果もまとまったようですので、その結果も踏まえて、今後どうすればいいかをご議論いただければと思っておりますので、どうかよろしくお願いします。

【石崎行革・施設管理課長】

はい、ありがとうございます。それでは、この後の進行につきましても高山委員長の方でよろしくお願いいたします。

【高山委員長】

それでは、今日は協議事項が2つございます。まずは、歳入・歳出全体ベースの財政推計についてということで、公共施設再編に係る財政シミュレーションの結果として、資料3が提示されていますので、その内容について事務局から説明願います。

〔事務局説明（資料3）〕

【高山委員長】

はい、ありがとうございます。

何か、これを見ていると、とんでもない大赤字になってしまう危険性があるという結果でございますが、何かご意見なりご質問あればよろしくお願いします。

【B委員】 公共施設を半減させたとしてもかなり厳しいということ？

【森施設再編係長】 はい、そうです。

【高山委員長】

半減の計画では、元々施設（の保有すべき優先度分類）のA、B、C、Dとありましたが、AとBは残すとして、Cくらいも全部削減しないと半減にならないのでしたか。Cは半分くらい残せるのでしたか？

【森施設再編係長】 Cは、公民館、文化センターですね。

【石崎行革・施設管理課長】

公民館は残せます。文化センターは市全体で1つくらいと積算しています。それは前回資料中に総合管理計画で残すとして提示した数字になります。

【高山委員長】 そうすると産業系はもう全部手放すという

【石崎行革・施設管理課長】

全部にはなっていませんが、かなり多くの施設を手放す試算になっています。

【B委員】 2043年だから24年後？今回の終期も2043年に変わりはない？

【森施設再編係長】 計画期間（終期）はズラさないようにします。

【B委員】

今度の場合、数だけのこともあるが、大規模修繕を一切行わないとしている。大規模な修繕を必要とした場合、当初もう少し後までいく予定で、計画上は耐用年数までもたせないといけないうとして数字上残っていた施設でも、大規模修繕が必要だと分かった時点で大規模修繕を行わないというのは非常に大事だと思う。それを計画にどう書くかという、表現的にはどうなのか。例えば19あるものを10にすると書いたとして、今から25年の間で、また大規模修繕が出てくる訳ですね。天井が漏っただの、排水

管が詰まっただの様なあると思うが、それをこの、我々が描く計画の中で、どのような文章表現にすれば良いのか

【石崎行革・施設管理課長】

今はまず、残すものの「数」を決めます。その縮減していく方法の一つとして大規模改修をしないということになってくるかと思います。今の計画の中に特にそれは載せません。縮減してくにあたって大規模改修が発生した時点で休止する、実際にやる時にはそうなると思っております。

【B委員】

だから、それを明らかにしないと。一般に数だけ決めたとしたら誤解を産むかもしれないじゃないですか。

【森施設再編係長】

最終的には施設を特定しますが、2カ年をかけて再編計画を見直す予定です。本年度は残す施設の「数」をまず決めていただいて、来年度どの施設を残すのかを決めていただく予定にしています。ですから、どの施設を残すかが決まった時点で、それ以外の施設は、大規模修繕の必要な時期が到来した時点での修繕は行わない、逆に残すと決めた施設にはお金を投資して残していくということになります。

【B委員】

だから、半分にするというのは、数的に明確に、数と面積を合計した数が明らかに1/2にならないと今回の計画は達成できない。計画そのものが成り立たなくなるということですね。

【石崎行革・施設管理課長】

そうですね。面積だけではなく、結局かかる費用でシミュレーションをするので、面積が小さくても、たくさんお金がかかっている施設が対象になれば効果も大きくなります。今の時点では優先順位という分類でいくと、学校とか文化施設とか温泉とかプールとか、割とお金のかかっている施設がありますので、そういった施設の取り扱いをどうするかによって、数字は変わってくるのかと思っています。

【B委員】

単に維持管理をするのに、精々電気代とか下水道代とか払っていれば済むような施設と、やたら人が張りつかなくてはいけない施設、ボイラーで温めないといけない施設など、さまざま。金のかかる施設や、人が必要な施設とか、面積だけでは測れないはずで、それはどういう計算方法なのか。

【石崎行革・施設管理課長】

思いとしては、本日で「数」を決めていただいて、その上でどこを残すか（の想定）はこちらに一任いただくか、耐用年数が一番長いものから優先して試算するか、とりあえず、今回決まった数で財政シミュレーション的にどうなるのか、次回までに提示できれば良いと思っています。今日もしAとBが終わるとすれば、AとBでこれだけ減らせば、残す施設の経費はどれくらいになるのか。そうするとC・Dの分類で、これくら

い残せば良いとか、そういうことに出来ないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

【B委員】

分かりやすい質問をすると、A 保育園と B 保育園があつて、いずれもやや小規模で、A は残すけど、B は将来子どもが減るから解体すると決めた。結果、B 保育園としてのハコモノは消えるけど、こっち（B 保育園の地域）の子どもたちは A 保育園に移る。保育士や職員も一緒に移るとなると、人件費分では経費をあまり削減できないじゃないですか。そういうのはあとで計算するということですか？

【石崎行革・施設管理課長】

そこまで細かな積算は正直できません。ただ定員的に入れる子どもの数が確保できれば、保育園は運営できるという前提で、今の保育園の維持管理費で試算をさせていただきます。人件費が増えるとか諸々変わってくる部分も多々出てくると思いますが、そこまでのシミュレーションは現実的にかなり困難ですのでご容赦願います。

【森施設再編係長】

大きく見れば、大規模改修とか、改めて新規に整備するとか、そういう経費を削ぎ落とせるかのシミュレーションで、そこまでしか出来ないということです。

【B委員】

それを今日（第 3 回）と第 4 回、第 5 回、あと 2 回ある訳でしょう。今日やるべき事と、（12 月 19 日の）第 4 回、第 5 回というか 12 月 24 日は予備日ということですから、進行が遅ればもう 1 回やらざるを得ないということだとしたら、今日の到達点と次回（第 4 回）の到達点は、どのようなイメージなのか。

【高山委員長】

今日は「ここまで減らすよ」という、ある程度の数を決めていただければ、それに基づいて、ザクツとしたシミュレーションだと言いながらも、数が大体決まる。計画は既に半減する数になっていますが、それよりもう少し減らせる、ということで決まれば、それによってシミュレーション結果も変わってきますので、最終第 4 回には、それで良いですか、という確認になると思います。シミュレーションは大変なので 1 カ月で出来るのかということもありますので、それが難しければ 24 日まで延ばすということもあるという意味での予備日。あるいは、19 日に開いて中々結論が出なければ 24 日にもう 1 回やるということにもなるのだらうと思います。

【B委員】

ということは、目標としては年内に一定の目途はつけるということですね。

【F委員】

元々は 50%削減ということですが、最新のシミュレーションでは 50%でもまずいということまで明らかになっている訳ですね。では、どの程度、例えばパーセンテージでの表現なのか、そこら辺は決まっているのでしょうか。（そこも含めて）決めたいということでしょうか。

【石崎行革・施設管理課長】

そこは、シミュレーションしてみないと分からない部分もあるのですが、先ほども触れましたように、経費がたくさんかかっているものを無くせば、面積が小さくても大きな効果はある訳ですから、まずは今日決めた数で次回までにシミュレーションを出させていただきます。

【F委員】

まずは、この管理としては延べ床面積を 50%程度、必要なものから順番にやっていて、結果として 50%程度削減したものでシミュレーションしていただいて、結果どうなるかを照らし合わせて、足りているのか、足りていないのか、まだまだしないといけないのか、という次の段階にやっと入れるというところで、まずは 50%程度を目安に削減してくださいというところで、今日は話し合うということですね。

【高山委員長】

ほかによろしいですかね。もし、あればまた戻って質問していただければと思います。では、2) の第 2 次南砺市公共施設再編計画の改定について、資料 5①と資料 6 がありますので、あわせて説明をお願いします。

〔事務局説明（資料 5①、資料 6）〕

【高山委員長】

はい、ありがとうございます。

何かご質問なりご意見ありますでしょうか。

【B委員】

長寿命化とか改修とかが終了している施設はどれですか？それによって、耐用年数は来ているけど、この辺まではもつとか、そういう情報を示してもらえないですか。

【森施設再編係長】

長寿命化等で改修した施設は多くありませんので口頭で申し上げます。建築担当に確認しましたところ、理論的には（長寿命化で）30 年はもつだろうということです。井波小学校は 2046 年、福光中部が 2054 年、井波中学校はこのとおり（2051 年）、福野中学校は大規模改修で 2037 年までもつということになります。

【高山委員長】

おそらく、この資料 5①でアンダーラインの引いてあるところが肝な訳です。この委員会では、諸々この世の中のこととか、地元のこととかに配慮すると「これは潰せない」とか「潰すとなると反対意見が出るだろうな」と、色々なことが背景にあるんだろうと思いますが、この委員会では「べき論」で議論していただきたいと思います。

こうあるべき、理想系というのは変ですけど、南砺市の経営戦略と言いますか、財政シミュレーションからすれば「こうやらないともうもたないですよ。だからこうあるべきでしょ」というかたちで取りまとめたと思っています。もちろん、それで最終案になるとは思っていません。政治力も働くでしょうし、色んな力が働いて結果的には折衷

案で「こころ辺」というところに落ち着くのだらうと思いますが、最初からそういうことを考えていたら、きつともっと、何と言うかあまり良くない案になってしまいがちですから。当面は理論的に考えて、こうあるべき、というところでまとめたいなと思っています。各委員の皆さんがどのようにお考えなのかも含めて、ご意見をいただければと思います。

【B委員】

問題は、この再編計画の見直しの検討委員会で、議事録もいただきましたが、世の中にはマスコミも入れてやってきたような経緯もあることはあるのだけど、あまりこの途中経過、これは、市長に答申することになるのでしょうか、単に行政が参考にされるものなののでしょうか。

【石崎行革・施設管理課長】

提出いただくかたちですが、諮問や答申ではないです。

【B委員】

それから行政内部で検討が始まる訳ですね。

【高山委員長】

来年度は、個別に地元の方との調整も当然必要なので、個別の施設をどうするかは来年度にやる訳です。その時にきっと調整が入るはずですよ。最初からここで、そんな調整のことまで考えて言っていたら、もっとくだけた案になってしまう。今回は「あるべき論」で、数はこの辺、ということで提示できればと思っています。で、それに基づいて、具体的にこれを潰すとか、これは改修しないとか、どんどん計画で個別の検討に入った段階で、検討委員会はそう言っていたけど、これは難しいね、じゃあ折衷案でここまで、ということで最終的に決まる方向になるのではないかと思います。

【B委員】

心配なのは、この委員会で小学校はいくつ、中学校はいくつ、プールはいくつだと「案として」決める訳で、それを途中経過にも関わらず公表してしまうというのが、良いことなのか悪いことなのかということなんです。

【D委員】

それは財政シミュレーションが厳しいので「これくらいにしないといけないですよ」という案で出すんですよ。

【B委員】

そういうこと。それで数が出てしまう。

【D委員】

それは、委員会として例えば「2つにしろ」と決めている訳ではなく「これくらいにしないといけないですよ」という危機感を、やはり市民にも共有してもらわないといけないということですから公表して良いと思います。こういう数字じゃないとダメですよ、と言っている訳では無いので、それは別段問題ないかなと思うのですが。

小学校も今9校あるところを4校にしろとなると、頭の中ではどれとどれだとか、

そんなことを考え出したら絶対に前に進んでいかない。それは、過疎地の良いところもあるし、残さないといけないところもあるのは、僕らも重々分かっています。でもやっぱり交通の便を上手く利用して少なくできないかな、ということは、その先に検討してもらわないといけない。数字的に（1 学年で）10 人 20 人になっても、まだ大きな小学校や中学校を抱えているというのは、おかしい事になってしまう。その先のことは、先の方々にお任せすることとして、この委員会では、「実質的に」どれくらいの数にした方が良いのか、ということを決めないといけないのだと思います。

【高山委員長】

そう思っているのですが、文科省の基準で単純に割り出せば 4 校ということになるけど、実質的にはそんな訳にはいかない。かと、言って今の 8 校（という計画）のままで良いかと言えば、そうではないと思われる訳ですよ。

【E 委員】

理想論では分かります。「（こうある）べきだ」というので、財政が赤字になるから 4 校にしないといけない、そうするべきだ、というのは分かるんですが、先般南砺市の出生数について予想よりも低かったという報道がされていました。お母さん方はどうですかね。そんな小学校も無いところに住みますか。結婚する際に、子供を育てる事が、学校に行かせるにも遠くて毎朝送迎しないといけない、帰りもどうするとか心配しないといけない、そんなところに住もうとか定住しようとか、若い人たちが果たしてそう思って入ってくるのかと言ったら、逆にそんな不便なところじゃなくて、もっと便利なところで住んだ方が良いという思いも出てくると思います。だから、未来を見るのか、ただ、財政の部分でバツサリなのかというようなことで、あまりにも未来が無くなってくるような感じがして

【B 委員】

元々あった小学校が無くなったら、その地域の子どもたちが学校に行けないと言う訳ではないんですよ。スクールバスか何かで行くのだろうけども、旧村や旧町で 1 年間に（子どもが）1 人産まれたり産まれなかったりする、そんなところに小学校を残すというのは、逆から見れば有り得ないことじゃないですか。そんな学校なんておかしい話で、まして今は 30 年後の話をしている訳で、その頃には世間でそんなことが起きている。保育園もしかりです。だから、その地域に保育園が無くて良いのかと言われても、保育園に行かない訳にはいかないから（市内では）城端に行ったり、福光に行ったりとか、色々な選択肢が出てくる訳です。村の事ばかり言っている訳にはいかなくて、30 年後だったら城端や井波もそうやって今年は 3 人しか産まれなかったとか、そんなような世界になる訳ですよ。

【E 委員】

定住してほしいとか言いながら、逆の話がそこに出てきている訳で、どうバランスを取っていくのかということも考えていかないと中々若い人たちは入って来ない。利賀なんかは平均年齢は何歳なのかみたいな話で、減る一方という地域も実際にある訳ですから、その辺りの線引きというか、バランスをどう考えていかれるのかなと思う訳です。

【高山委員長】

仰るとおりです。総合戦略の中では「まち・ひと・しごと」で「ひと」も大事なんです。移住してもらわないといけない。特に若い世代に入ってきて来てもらって、子育てをしてもらわないといけない。それが出来る環境に無かったらみんな来ないというのはそのとおり。最近問題になっているのは参加が無いということ。能登でも昨日か一昨日の新聞に載っていましたが、産科医が1人になってしまって、これでどうやって24時間まわすのかというのが話題になっている。それと同じで、そんなところに若い人たちが結婚して住むかと言えば住まないですよ。そう言われてしまえば、どんどん人口は減ってしまう。だから、それは大事という一方の考え方と、そう言いながら新しい施設を作れば、最低40～45年も施設はある訳で、それは維持していかななくてははいけない。本当にそれで良いの？ということも一方である訳です。非常に難しい問題なんです。だから、「べき論」でと言ったのですが、「べき論」で言えば4校で良い訳なのですが、4校というのは現実的には難しいと思われる。でも、じゃあ8校で良いの？と言われた時に果たしてそうなのか、とそういうことを議論したいんです。

【B委員】

10年後をイメージするとまだ大丈夫かな、20年後をイメージしたら多分ダメだろうという施設、30年後はもっと多分ダメになっているだろうというのはある。10年後であれば、今のような論理で乗り切れるかもしれないが、この計画の終期は2043年なのだから、いつやるかはともかく、最終的にはそれくらいになってしまうのではないのかという。いきなり学校の事がテーマになっているからアレだけど、学校だけじゃなく、温水プール、図書館、文化施設、診療所、デイサービスセンターと、これら全部をやらないといけない訳です。学校なんて特に一番シビアな話かもしれませんが、現実的には4つの村と4つの町が合併した関係上、どうしてもそういう括りが出てくる。だから学校は6つなければいけないとか7つないといけないという話になる。でも、小矢部市は合併をしていないから、小学校も中学校も1つで良いと言い出している。何故かと言えば合併をしていないから。「オラの村から学校が無くなった」なんて誰も言い出さない。子どもが減ってきた。この減り方を見たら、こんなにバラバラと点在する小学校中学校は維持できない、とハッキリ言い出している。ところが南砺市は4つの村と4つの町が合併しているものだから「旧町村のエリアを超えて」という意識が色濃く残ってしまう。本来ならとっくの昔に無くなって良いはずの学校が残ってしまうし、残したいとか言う人たちがいるから難しい。だけど、そんなことはもう言っていられないんですよ。子どもが産まれたり産まれなかったりするところで保育園や学校を本当に維持できるか、本来なら有り得ない話で、今はまだ2人産まれた3人産まれたということなら仕方ないのかなと思っていますが、親の気持ちから言ったら、1クラスに3人しかいないような小学校に子どもを出して、子どもが健全に頑張れるかということと甚だ疑問に感じられるのではないかと思います。

【D委員】

逆に言えば、南砺市で考えると、例えば城端に中学校が無くなって福光に（行く事に）なりましたといった場合に、福光に移動するのはOKなんですよ。南砺市としてはですよ。城端としては痛いし、出てほしくは無いんだけど。だから、そういう考えで、じゃあソコとココを拠点にそこ（学区全体）を盛り上げていきましょう、というふうな考え方をしていかないと難しいと思う。昔、各地域で小学校が沢山あったものを1個に

まとめて、それぞれの地区がどうなったかと言ったら、当然人は少なくなっていると思うけど、それなりに住んでいる方もいるので、同じようにそういう地域、町部や村部という言い方をしますが、市全体としてそんなかたちになっていくのではないかと、そんな状況を頭に描きながら何個要するのか、ということを決めていかないと。山の方、平・上平・利賀は別口で考えないといけないとは思いますが、残りの平野部はそんな考えでいかないといけないのかなと思います。

【F 委員】

学校の方、小学校と中学校と保育園では役割が違うと思うので、例えば保育園だったら、子どもが一人では通えないから保護者が通える範囲の距離みたいなものを算定出来ると思います。小学生になってきた時にはスクールバスをもう少し使い易いものにする事で統合化しやすくなると思いますし、中学生になるともっと子どもたちが自分で動けるので、そうなった時には家から近いとかよりも、部活動の選択肢があるとか、いろんな選択肢がある方が、保護者にとっても魅力的かと思うので、一概に地域の数と施設の数（がリンクする）ということばかりではなく、子どもたちに何を残していきたいのか、何が必要なのかということから、数を絞るという方向で話を進めるべきだと思います。中学生までになると地域が大事というよりは、小学校のうちに身近な地域のことを学ぶ時間をしっかり取って、中学校になると、全市的なところで交流が出来るとか、そういう学びの方が子どもにとって健やかな学びにつながるのだとすれば、中学校は、この数が必要あるかどうかということは気になりますし、小学校にしても、地理的なことがはっきり分からないので、子どもがスクールバスで通える範囲にあるのかないのかみたいなところも考慮に入れて、地域性と通いやすさを重点的に考えていくと（数を）絞る選択肢というか、案をまとめていくことが、できないでしょうか。

【D 委員】 施設を 1 個残すよりスクールバスの幅を広げた方が安くつきますよね。

【B 委員】 もちろん。何百倍も安くつく。

【D 委員】 そうですよ。（管理職も含めて）職員の数も減ることだし。

【B 委員】

学校の話で前から思っていることを言わせてもらおうと、利賀は東京の武蔵野市と交流していて、武蔵野の子どもが夏休みになると 1～2 週間ほど山村留学でやって来るが、あれでは学校数を維持することに何の役にも立たない。そうではなくて都会のマンモス校で引きこもりになったり苛めに遭ったりとかある中で、こんな環境の学校にいるよりも、小学 3 年生くらいから利賀の学校に通って中学校まで育てるというのが、今ある意味で流行っている。流行っているというのはおかしいけど、要するに東京で子育てしたくないという、そういうニーズを本格的に受け入れて、預かる里親は、子どもが大学に行ってしまうと小学生 1 人くらいなら面倒見ても良いというような家で引き受けてもらう。そんな 20 人も 30 人も来なくてもよくて、5 人とか 10 人が来てくれたら随分と地域社会も変わるような気がする。そういうチャレンジもした上で、ダメなものはダメだと判断するべき

【D 委員】

色々なやり方があって、先ほど言われたように、私も保育園小学校の数は出来るだけ維持できれば良いと思っているのですが、中学校に関しては、部活動の問題とか、いろんな問題が周りから聞こえてくる中で、やっぱり集約した方が良いのではないかと、その代わりにスクールバスなり何なりの機能を強化するかたちであれば、もっともっと減らせるのではないかと思います。極論的には中学校は 2 つくらいあれば、先ほども言いましたが、利賀・平・上平は別として平野部に 2 つ、大きく言うと井波と福光くらいにドーンとあれば、あとは公共交通機関（やスクールバス）で何とかなるのではないかなと思いますし、30 年 40 年後のことを考えると、それくらい抜本的なことを考えていかないといけないんじゃないかなと思います。

【C委員】

そうすると、ここに書いてある文科省の基準はそんなに外れていないのかなと感じますよね。例えば中学校は 2 校で、小学校は 4 校というふうに記載がある訳ですが、私も 1 歳と 3 歳の子どもがいて、これから小学校に入って、中学校に入ってという中で、小規模な学校に通わせるよりは、ある程度の人数、最低限の人数がいないと学校教育上も良くないだろうと思うし、そういう（ある程度の人数が確保できる）学校に通わせたいと思う。これが（1 学年に）10 人規模の学校ばかりが市内にチョコチョコ沢山あっても教育上は良くないと思うので、そういった観点からも減らすということが決して悪いことではないのかなというところで、今、市の考えでは 8 校となっていますが、例えば 7 とか、もうちょっと減らした数を、委員会として提言しても良いのかなという気はします。

【B委員】

他のまちの方はご存知かどうか、城端だけの取り組みなのかは分かりませんが、冬場に中学生が部活動を終えて、しんと雪が降っている中で自転車を漕いで家に帰るのは大変だということで、小学生のためのスクールバスを中学生の部活動が終わった生徒の送り迎えに利用している。冬場だけ、そういうのを実証している。

【F委員】 福野も始まりました。

【D委員】 あれは南砺市全域の取り組みになっているはずです。

【石崎行革・施設管理課長】 最近始まりました。

【B委員】

全域での取り組みになっているんですね。アレなんかを見ていると全然違和感が無い。だから、そういうことを南砺市中でやれば良いだけの話で、バスに乗るのが面倒な子は自転車で通えば良い。

【高山委員長】

最近流行りですね、能美市も冬だけ中学生用にコミュニティバスを乗りやすく走らせていますし、そういうやり方はあります。私は、森本ですが、森本中学校には寄宿舎があって、冬になると山から出て来られなくなるから、寄宿舎で冬場を過ごす、そういう方法もある。色々なやり方があると思うんです。

【C委員】

ハコモノに頼るのではなくて、その後の工夫で乗り越えていけるような市にしていくべきですね。

【B委員】 ソフトでカバーしていく。

【D委員】

例えば、女子のソフトボール部が無いので南砺市から出て行くというパターンの方も多いので、特に中学校は集約して、部活動を多くして選択肢を沢山持たせてあげるという方が大切ではないかと思う。

【E委員】

今は、部活はコレとコレしか無いからこの中から選りなさいってなるそうで、それは本当に可哀相だなと思います。

【C委員】

選べる数も少ないですね。(必要選手数が足りずに) 組める競技が少なくて大会等に出場もできない。

【B委員】

部活もそうですが、このあいだ小学校の先生と話をしていたら1クラス4~5人しかいない小規模な学校に行くと体育で何を教えて良いか分からないと言われるんですよ。リレーの練習もままならない、バレーボールにもならない、何にもならない。先生方が体育の授業のたびに招集をかけられて、バレーボールと一緒にやらないといけなとか、そういう世界なんだそうです。

【D委員】

小規模校だと、例えば体育祭で100m走をするというと、小学校1年生の時から、この子には敵わないというのが4人なら4人でずっと順番が決まってしまって全然競技にならないそうです。小規模校の良いところもある。そこはソフトで考えてあげれば良いのかなと思う。ハコモノとしては、そういう感じで、やはり数字を決めていってあげないといけないのかなと思います。

【高山委員長】 という事で、ここら辺で何か決めて行かないといけないですね。

【B委員】

資料5①の(総管理計画の)数字をベースに知恵を出して一つずつ議論していけば良いじゃないですか。

【C委員】

Aの中の小学校、9ある内の8が良いのか、もっと減らしても良いんじゃないか、とかも含めて

【高山委員長】 今の計画では8に減らそうという計画になっている訳ですよ。

【B委員】 これはいつまで？2043年？

【C委員】 30年後ですね。8はちょっと多いんじゃないかと思います。

【B委員】 8なんて有り得ないですよ。

【高山委員長】

そうですね。適正基準では4校なんですから、30年後に本当に4校いるかと言うとそれも不思議なんですよ。

【A委員】

でも、ある程度数字的なもので示せる方が説明もしやすいでしょうし、いろんな方の理解も求めやすいと思うので、究極の数字で提示しても良いのかなと思います。

多分この後調整も入られるのですよね。

【高山委員長】 個別にいく時は絶対に調整は入ります。

【A委員】 だったら究極の数字から進んでいかないといけないと思う。

【B委員】

今の話も含めると30年後の数字がいつぺんに出るよりも、例えば10年後までにはとりあえず8にします。20年後にはさらに減らして、30年後には4つくらいで良いのではないかという、それで30年後に4としたからと言って、みんな慌てふためいて暴れ出すということは無いと思う。時系列的にいけば、30年後の数字として、いきなりここで4と書くと、それは大混乱になりますよね。

【A委員】 ソフトランディングということですね。

【D委員】

先ほど言った極論で4と考えたら、頭の中で、あそこと、あそこというふうに皆さん、その数によって考えてくれるので、良いと思うんですけどね。

【高山委員長】

この耐用年数もちょうんと示しながら考えていくべきだと思うんです。それで30年後を見ると（資料では）うまい具合に4になっている。で、20年後は6、30年後で4にしておけば、大体今ある施設の状況にあったものになってくる。

【B委員】

学校とかは丁寧に10年後、20年後、30年後と少し分かりやすくした方が良さそうな気がしますね。いきなり30年後の数字を書くとみんなびっくりして混乱してしまうから。

【D委員】

ちょっと補足でよろしいですか。前回も議論のあった井口小学校が耐用年数が来ているんですよ。で、井口中学校は2028年までもつとなっているのに対して、果たしてここで井口小学校を新しく小中一貫校にシなくちゃいけないのか。数から言うと井口中学校に集約することは不可能なのか、ということを考えていただければと思う。私たちがこれから決めていく数字にも関係してくるので。

【C委員】

そうですね。委員会として「そのことを必ず考えてください」という補足文じゃないですけど入れてほしい。これだけドラスティックに、痛みを伴って縮小しなきゃいけないという話をしている中で、明らかに、20人くらいのために、お金を使うというのは、経営上おかしいのではないかと、思っていることはきちんと示しておきたい。

【B委員】 作ってしまったらまた50年もたないといけませんからね。

【C委員】 だから、そこを明確にしておかないと、おかしい話になると思う。

【B委員】

義務教育学校は、淡々と今の小中で、ちょっと離れているけど古い小学校で、まずやってみる。そして小学校がよいよ耐用年数が来たら、そこで村の人たちがどう考えられるかを聞いて、ただ、もう大規模改修も新築もしないと我々は言っている訳だから、それで自ずと結論が出てくるんじゃないですか。今すぐ潰せなんて言っているつもりは無い訳ですから。

【C委員】

ですから、この2028年までもつ方でやってみれば良いんじゃないかなと思います。「やってみましたが始まったら誰も賛同者が得られなくて転校していきました」なんてことになったら、このあとは何に使うの？という話になってしまうかもしれない。特に新しい取り組みということで、リスクが伴うということも有り得ない訳ではないですから。

【高山委員長】 もう実施設計まで出来ているのかもしれないですけど

【C委員】

設計の時点で止める事も可能だと思います。工事が始まってしまえば、よりお金がかかってしまう。

【B委員】 建ててしまったら大変な事になる。

【D委員】 （案で）中学校を2とすると井口中学校は残ることになる。

【B委員】 場所的には（市の）真ん中らへんにあるらしいが

【高山委員長】

では、今ご意見が出たように、小学校については10年後8、20年後6、30年後4というような提示でよろしいですかね。ちょうど耐用年数の資料がありますが、具体的にどれとどれとかを示すと、またハレーションを起こすので示さないようにします。

【B委員】

皆さん方の意見から言うと、小学校は割と遅くまでそのくらいの数を残しながら頑張るけど、中学校は必ずしも小学校とリンクしてなくても良いということで意見の集約ができていないんじゃないですかね。中学生にまでなると距離が遠くなっても、むしろ部活動が一生懸命できたり、友達と切磋琢磨できたりする方が良いんだから、少なくとも30年後には、という話でしょう。

【D委員】 中学までいくと冬は寄宿舎というのも出来ない事ではないですよ。

【高山委員長】 (他自治体で) 前例はありますし、冬の間だけでもね。

【B委員】

さっき言われたのは小学校ですよ。30年後8、20年後6、30年後4と。それを中学校の方でイメージして、30年後に4までいくと書いちゃいますかね。

【高山委員長】 書き過ぎですか？

【B委員】 中学校がそれくらいかなと。

【C委員】

委員会の意見としては4でも良いと思うんですけどね、逆に文科省の基準では中学校は2になってくるので、それが4となると、ちょっとどうかなと思います。

【高山委員長】

中学校を見ると、これも上手くいくようになってますよね。今の耐用年数でいけば10年後7、20年後4、30年後は2となります。

【D委員】

建物はしっかりしているからコミュニティセンターか何かにしてもらったりするのも良い。この辺は耐用年数を考えずに(理想的な)数字を決めた方が良いと思います。

【高山委員長】

そういうことでいくと今は8校ありますよね。で10年後は(耐用年数でいけば)7くらいなんですよ、本当は。

【D委員】 7にしたら全く手に入れないということになるので

【高山委員長】 基本的にはね。じゃ6くらいですか。

【D委員】 7にしたら最終的に2にはならないです。2にもっていきたいので

【C委員】 6、4、2 くらいでいかないと、(2 には) いかないですよ、絶対。

【高山委員長】 そうしたら 6、4、2 ですかね。

【B委員】 2 つということは…

【D委員】 (どことどことかは) 口にしたらダメでしたよね。

【B委員】

いや、平野部で言うと割とコンパクトなんだよね。全国的に見ても。天地がひっくり返るようなほどのことでもない。

【C委員】

個別の中学校については来年度で、私たちがイメージしちゃうと話が進まなくなってしまうので、そこまではなかなか…

【高山委員長】 保育園は厳しいですね。

【C委員】

比較的どこも新しいですし、子どもを預ける親として近くに無いと困るというのはありますよね。

【D委員】 保育園は人数によって縮小していくという

【F委員】 定員を満たさなければ(統合を検討する)という、この案で。

【D委員】

そうですね。案としては人数が少なくなった時点で検討するということで、これは、地域性がないと数字が分からないですよね。

【B委員】

耐用年数で言うと、幸いというか 2020 年に山野保育園(木造)の耐用年数が来る。これをとりあえず減らす。10 年以内に少なくとも 1 個減らす。で 20 年後は

【C委員】 20 年後にはあと 2 つの保育園で耐用年数がくるのかな。

【D委員】

耐用年数ごとに減らすというかたちで、あとは人数が減れば考えてもらうということ。人数は分からないですもんね。(統合に合わせて) 増えるかもしれないですし、でも増えることはないか…

【F委員】 どこにどのように人が住まれるかも分からないですからね。

【D委員】 耐用年数はしっかりしているので。

【F委員】 いくつかの条件を設定すれば、数ありきでなくとも良いと思いますが。

【高山委員長】 そうすると 10 年後には 11 で、20 年後 9、30 年後 8 ですかね。

【B委員】

半分に減らさないといけないというのは本当にキツイですね。キツイけれどもやるしかないね。書けと言われてたら我々も書くしかない。

【C委員】 庁舎は協議しなくても 1 になるから 1 ですよ。

【B委員】

庁舎の話はもう終わった話。この児童館の最終目標が 1 というイメージがちょっとよく分らない。

【C委員】

児童館はなぜ 1 なんですかね。小学校や中学校は文科省の基準があるのでイメージが付きやすかったけど

【D委員】 児童館は多分小学校の数と同じように、小学校は 8、6、4 ですから

【B委員】

そうですね。小学校が無いのに児童館だけがあるというのはリンクしない。

【C委員】

本来、児童館と小学校がリンクして、子育て支援センターと保育園がリンクする、というイメージでしょうか。

【石崎行革・施設管理課長】

ここでいう児童館は、市で造る大きくて遊具がいっぱいある児童館です。皆さんがイメージしていらっしゃるのは放課後児童クラブという、学校に隣接しているような機能のものかと思います。

【C委員】 学校に隣接しているものじゃなく、福光だと市役所の横にあるような

【森施設再編係長】 福光だと天神にある「きつずらんど」ですね。

【石崎行革・施設管理課長】

氷見市には 1 個で、昔の高校の体育館か何か、すごく大きなところで子どもたちが室内で遊べるような施設があるんです。金沢市でも児童館はそんな多く無いはず。富山にもどこか県の児童館か何か無かったでしょうか。

【F委員】 立山に児童館がありますね。

【石崎行革・施設管理課長】

そんな施設をイメージしておりまして、今お話しされていたのは放課後児童クラブという学校に隣接しているような施設のことかと思います。

【C委員】

大きい児童館を1個残すくらいなら放課後児童クラブを充実させた方が良くないですか。

【石崎行革・施設管理課長】

放課後児童クラブの数は、学校の1室を使っているとか、福野では体育館を使っているとか、他の施設に入っていることもあり、今この中には入っていないです。

【F委員】

建物ありきではなく、他の場所でも子どもたちの通いやすいところであれば

【高山委員長】 間借りしてやっているということですかね。

【石崎行革・施設管理課長】 子育て支援センターは、ほぼ保育園に隣接しています。

【C委員】 保育園の横とかにあって0歳児とか預けられるところのことですかね。

【石崎行革・施設管理課長】 預けられるというか親と一緒に遊びに行ける施設です。

【F委員】 未就園児が遊びに来る施設ですね。

【石崎行革・施設管理課長】

ですので、これ（児童館）も市としては1個くらい。相談所みたいな感じです。遊びに行ったり相談できたりする場所なので、氷見市は全部同じ建物の中に入っています。そういう施設だということを理解された上で協議していただければと思います。

【B委員】

児童館が今4つある中で、福野が大分古くなったないう感じがしますが、井波はどうなんですかね。これは新しく造ったものですね。

【C委員】 耐用年数は書いてありますね。

【D委員】 井波と福光は木造なので

【C委員】 古くなっているイメージですが、6年、9年はもつようですね。

【B委員】 基本方針として耐用年数は何年延ばすとしてありましたか。

【森施設再編係長】 2割です。

【B委員】 それはどうということ？資料中の耐用年数はナマの数字ですね。

【森施設再編係長】 これはナマの数字です

【B委員】 2割というのはどれくらいのイメージなの。

【石崎行革・施設管理課長】

耐用年数は木造であれば 20 年とか 24 年なので、2 割延ばすというのはあくまでも計算上の話です。実際に物理的に延ばすとかではなく、24 年の 2 割となれば 4～5 年延ばすということなので、木造なら 29 年使いますし、鉄筋コンクリートなら 50 年なので 10 年延ばして 60 年使うと、それはあくまでもシミュレーションする時にそういう計算をしているという意味でして、建物が 10 年延びるとかそういう議論ではありません。

【D委員】

これはでも小学校にリンクするんですよ。例えば、耐用年数が来るから耐用年数で考えるとして、2026 年に福光が要らなくなるからって、やめてしまうと、小学校はあるのに児童館がどこにも無いということになる。どこかの施設に入ることはできるよという案なら、全部入れてしまえば良いという話になる。小学校の中に入ることが可能なら、極論で言えばゼロにして、放課後児童クラブの機能を拡充するかたちで、小学校の中に入れたら良いという話にならないですか。

【B委員】 施設分類で「B」というのは平たく言うと、どういう意味？

【高山委員長】 これは今、どれくらい、どんなふうに使われているのですか？

【D委員】 共働きで家に帰っても家人のいない子が 18 時頃まで過ごすような

【高山委員長】 それは放課後児童クラブで、児童館とは違いますよね。

【F委員】

児童館で放課後児童クラブも一緒にやっているところもあるのでややこしいですね。

【B委員】 城端（の児童館）も両方やっていますね。

【F委員】

そうなんです。福野も割とそれに近いです。福光は学校に隣接していないので（放課後児童クラブとは）別物として動いていると思います。福野は小学校の目の前なので児童館と放課後児童クラブは一緒になっています。

【高山委員長】 福野は児童センターと書いてあるけど

【F委員】 一緒ですね、意味は同じです。

【D委員】 そういう機能を小学校に入れるというのは別段問題ないんですよね。

【B委員】 問題ないでしょう。

【D委員】 教育上とか、国からの何とかで造るとか、そういうことは？

【石崎行革・施設管理課長】 （防犯上）出入り口は分けなければいけないですね。

【D委員】

防犯上、小学校の中でここだけは出入りできるような扉をつけるとかそういう造り方をすれば問題ないということですね。

【石崎行革・施設管理課長】 福光（の放課後児童クラブ）はそうになっています。

【D委員】 ではゼロで良いんじゃないですか。極論から言うと。

【高山委員長】 最終的にゼロにするとして10年後、20年後はどうしますか。

【C委員】 それは耐用年数で（判断すれば）良いんじゃないですか。

【A委員】 利用者数の数を書いてありますが、結構多いですよね。

【高山委員長】 これはナマの数字ですか。1年間の出入りをカウントしたもの？

【石崎行革・施設管理課長】 ナマの数字です。

【A委員】 これだけ多いのなら無くしちゃうのは勿体ない気もしますが。

【D委員】 毎日来るから延べ人数じゃないですか。母親と来ると2になります。

【高山委員長】 延べじゃなければ85,000人なんて利用される訳がないですよね。

【A委員】 延べだとしても、それだけ使われているということですよ。

【B委員】 それは間違いなく使われていますね。

【石崎行革・施設管理課長】

雨天でも遊べる場所ですね。日曜日はやっていないですけど、土曜日はそこに行って遊ぶとか、そういうことに児童館は使われています。

皆さんがお話しされているような、学校の帰りに寄っていくという話ではなく、小さいお子さんたちが平日でも遊びに行くし、休みの日であれば子どもたちだけでも遊びに行く、そういう使われ方を児童館はされているということです。

【B委員】

福光の児童館はそういう感じですね。小学校が複数あるから中部小学校の子だけが行っている訳ではなく

【C委員】 だから中間地点みたいなところにありますもんね。

【高山委員長】 どうしますか。この耐用年数でいくと10年後は2になるのかな。

【C委員】 福野の利用者数は何でこんなに多いのですか？

【F委員】 児童クラブと一緒にいるので毎日必ず来る子たちがいますから

【C委員】 児童クラブに機能が入ればハコモノとしては要らなくなりますよね。

【B委員】 福野小学校は1校で元々分かれていないから全員そこに行く。

【D委員】 福光は3校に分かれていて、中間地点にあるから利用者が少ないと。

【F委員】

福野に関しては学校にそもそも学童も無いですし、学校が終われば必要な人はみんなアルカスに行くというかたちなので、今で言う放課後児童クラブもアルカスの中に入っているので利用者数も当然多いですよ。だからそれを学校で引き受けてくださると当然利用者数も変わります。

【C委員】

この施設自体が要らないというよりも単独のハコモノとしては要らないんじゃないかという話で、場所や機能、利用の方法は、ほかのところで考える必要があるということですね。

【B委員】

放課後児童クラブはしっかり維持していかないといけない。共稼ぎできなくなってしまう。

【F委員】

それはすごく必要で、居場所づくりはとても大切で、それをどこですのかということですね。

【B委員】

それは複合施設でも良いし、学校に併設しても良いし。だから、必要な機能は必要で、ただ、ハコモノとしては単純に数ではなくて、耐用年数が来たら新築はしないと、これで良いじゃないですか。要するに何個にするということではなくて、耐用年数が残っているのに潰す必要はない、それなりに利用者があるのだから。耐用年数が来たら新築はしないで、将来的には、どこかに複合施設として放課後児童クラブを併設したり、ただ無くすのでなく複合施設の中に児童館機能を入れたりしていく。そこをはっきり書い

ておいてもらわないといけない。

【C委員】 機能自体は必要だを書いておかないと、違う解釈をされても困るので。

【石崎行革・施設管理課長】

児童館の機能は、放課後児童クラブの中に全部入っていくということでしょうか。

【C委員】 それはまたソフトの面で考えてもらえば良くて

【石崎行革・施設管理課長】 別の建物に児童館の機能を入れるということですね。

【D委員】 児童館としての機能は残してほしい。

【石崎行革・施設管理課長】 機能は残すけど単体では要らないということですね。

【森施設再編係長】 耐用年数の到来と共に他の施設と複合化を図っていくと

【C委員】

子育て支援センターは保育園のとなりにあるものですよね。これは保育園とリンクしないといけないですか。

【石崎行革・施設管理課長】

いや、そうでも無いです。福光のきつずらんどの中にも機能としてあったはずです。

【森施設再編係長】 ありましたが、もう無くなりました。

【C委員】 これ8というのは保育園の数と合わないですけど。

【森施設再編係長】 旧村（平・上平・利賀・井口）にはありません。

【B委員】

井口では庁舎の中で放課後児童クラブみたいにして預かっておられます。

【C委員】 ハコモノは無いけど機能はあるということですね。

【石崎行革・施設管理課長】

放課後児童クラブは井口の庁舎の中でやっていますが、子育て支援センターの機能は保健センターにいかないと受けられないです。

【高山委員長】

大きな保育園があって、その一部が保育園、一部は子育て支援センターというスペースの話ですか。

【石崎行革・施設管理課長】

保育園の中に（子育て支援センターが）1 部屋あるという理解で良いかと思います。

【高山委員長】　すると保育園を潰していくとこれも無くなるということですかね。

【C委員】

保育園が無かったら、ある必要性が無いですよ。機能としては要るけど、その場所にある必要性は無いということじゃないですかね。

【B委員】　むしろ保育園と隣接していた方が良い？

【石崎行革・施設管理課長】

人的なことであろうと思いますが、今は隣接して造られています。氷見市は先ほども触れましたが、児童館と一緒にその機能を（保育園の）外に単独で出しています。

【C委員】

福光ですと、保育園の先生と同じ先生が行ったり来たりされているので、そういうことで隣接しているのですよね。

【石崎行革・施設管理課長】　そうだと思います。

【高山委員長】

ではこれはどう考えればよろしいですか。必要だから潰せないですよ。

【B委員】　保育園の推移にあわせてリンクさせれば良いのでは？

【D委員】

旧村に無いだけで基本は保育園とリンクしていますよね。2020 年に山野保育園が減るので、10 年後は 7、20 年後に 6 で、30 年後は 5 ですかね。

【F委員】

何かその分からないんですけど、福野には、ひまわり保育園とおひさま保育園があって距離的に近いところにあるんですよ。福野全域を 2 つに割ってそっちかこっちに入るというかたちなんですけど、保育園自体は近くにあるから、支援センターとしてはどちらか 1 個でも良いのかなという気がします。

【高山委員長】　キャパは大丈夫なんですか。全員受け入れられるくらいはある？

【石崎行革・施設管理課長】

そこは人数の減り具合や利用者の数によりますね。他の保育園も一緒に、福光にも 3 つありますが 1 つは、すぐにでも（集約して）大丈夫だと思います。

【F委員】

新設された保育園は、全て支援センターを隣接して出来ているので、耐用年数もあるし、建物も新しい。当然保育園自体はずっと残っていくと思うんですけど、支援センタ

一も 2 カ所必要かと言われると、少し減らしても、もしかしたら利用者の数が関係してくると思いますが、地域性とか距離を考えると、わざわざ分けておく必要性が少し分らないと思います。

【D委員】 ひまわりもおひさまも耐用年数はほぼ一緒ですね。

【F委員】

そうなんです。ほぼ同じ年に人口を左右に分けるように街中に、山側と街側ということもなく、どちらも街の方に建っているのです。

【高山委員長】 逆に言ったら一つに集約すべきという

【F委員】

ここはそうできるのかなと。地域とかの距離を本当は見ても良い、耐用年数ばかりでも無いのかなと思います。

【D委員】 人数から考えて一つになるという可能性もあるということですよね。

【F委員】 ですから 7、6、5 で本当に収まっていく話なのかどうか

【C委員】

確かに福光の南部だって利用者は 972 人しかいないけど、耐用年数では 30 年以上もつことになっている。そこに到達する前に子どもがいなくなるかもしれない。

【F委員】

あと、未就園児はお母さんと一緒なので移動は車です。だとしたら一緒にしても良いのかなと思います。福光地域にしても 3 つは要らないのかなと。

【C委員】 地域のことは言わないとしても 3 つはおかしいと感じますよね。

【F委員】 イメージして具体的に考えるとこんなに要るのかなと、少し思う。

【高山委員長】 どうしますか。もう少し大胆にいきますか。

【F委員】 子育て支援は大事だと思うので、その辺はどうなんですかね。

【C委員】

子育て支援は間違いなくやらなければいけない。その機能は必要なんですけど

【高山委員長】

だから一つに集約した時に、その機能が持てるかということですよね。ただ耐用年数は 30 年後だけど、子どもの数を考えると本当に 2 つ要るのかというのは微妙です。確かに今は必要なんでしょうけど。

【F委員】

今の利用者さんを考えると、10年後で7とかの方が良いのかもしれないですね。

【C委員】 これだけを見ると（30年後は）4くらいになりますよね。

【D委員】

どっちかという、さっきの逆戻りで保育園を見ると、10年後は（子どもの数が）残ったとしても、20年後は残らないことも考えられるから、福光と福野は1つずつと考えれば20年後の9というのは7でも良いのかなと思います。ということになると子育て支援センターの数も出てくると思う。だから保育園は（10年後）11、（20年後）7、（30年後）6と考えれば、子育て支援センターは7、4、4ですかね。

【高山委員長】

はい、ありがとうございます。その他の子育て支援施設はどうですかね。親水公園、これは何ですか？

【石崎行革・施設管理課長】

これは井波にある屋外プールで、今は休止になっていて使っていません。

【C委員】 2051年までもつことになっていますがどうしてですか？

【森施設再編係長】 RC、鉄筋コンクリートです。

【高山委員長】 もつけど、もう使っていないということですね。

【C委員】 では、もう無いということですね。

【石崎行革・施設管理課長】 もう一方も普通財産になっていますので両方0です。

【高山委員長】

次は、介護福祉施設。段々厄介になってきますが、これもきっとあと10年20年、30年後には人がいなくなりますから

【B委員】 65歳以上の高齢者数はどこをピークに下がり始めるんですか。

【石崎行革・施設管理課長】 もうそろそろピークですね。

【B委員】

逆に80歳以上が増える。高齢者全体は減っていくけど80歳以上の高齢者が増える。

【高山委員長】

2025年問題ですね。2025年に団塊の世代が75歳になって後期高齢者になる。それから10年で85歳、20年で考えると95歳ですから、段々と減っていきます。そう考えると2025年から2035年、大体30年後のことを考えると、こんな数は要らないと

いうことになりますね。

【B委員】 利用者数0というのはもう止めるんですよね。

【石崎行革・施設管理課長】

2番はもう止めます。9番は事務所として使っているので利用者数は、いないということです。

【B委員】 これは福野の元の病院のことですね。

【石崎行革・施設管理課長】

はい、補足しますと、これは社会福祉法人に譲渡するという前提で、数が極端に減っているのは、平場のものについては、そのようになっています。

【B委員】 福野の元の病院は空いている部屋がいっぱいあるのでは？

【石崎行革・施設管理課長】 今は社会福祉法人が使っています。

【B委員】 使っているけどフルに使われていないのではないですか？

【石崎行革・施設管理課長】 事務所や会議室が入ったりして使われています。

【B委員】 それで下（1階）には診療所がある。

【石崎行革・施設管理課長】 反対側には保健センターがあります。

【C委員】 特養の利用者数ですが、延べにしても4万とか5万人を超えますか？

【森施設再編係長】

併設されているデイサービスセンターの利用者が延べ数でカウントされています。

【高山委員長】

入居されている方の人数についても入居者×365日という数字で計上されているのではないですかね。

【C委員】

デイサービスセンターは市で保有しないと運営が成り立たないということですか？

【高山委員長】 金沢だったら民間です。

【C委員】

あまり市で保有しているイメージが無くて、いただいているデータでもほとんどの市が持っていないと思う。

【石崎行革・施設管理課長】

ですので、私どもとしまして、そういう方針（民間へ譲渡）にさせてもらっていますが、中々引き受けてもらえないというのが現状です。

【高山委員長】 計画上は5施設残すことになっていますね。それはどんな計算？

【石崎行革・施設管理課長】 資料上のNo.で言いますと2、3、4、5

【森施設再編係長】 五箇山地域の施設ですね。

【高山委員長】 平・上平・利賀というところですか。

【C委員】 民間では成り立たないところということですね。

【石崎行革・施設管理課長】

成り立つか、成り立たないか、民間で運用できるかというのは難しいところです。

【C委員】 人口的に考えても難しいところですね。

【高山委員長】 そしたら2、3、4、5と7ですか？

【石崎行革・施設管理課長】

7は違います。9が他の分類から入ってきたので、元々の2、3、4、5の4つに加えて5つになります。

【C委員】 その内の2と9は（利用者が0だから）もう潰すんですよね。

【石崎行革・施設管理課長】 2はもう潰します。

【D委員】 9は残さないといけない？機能しているということですよ。

【石崎行革・施設管理課長】 今のところは使っていますが

【高山委員長】 これは必要なんですか。無くした時に他と集約できないですかね。

【D委員】 8と集約するというのは難しいのでしょうか。

【石崎行革・施設管理課長】 他との集約は難しいですが、8と9は実質一緒ですね。

【D委員】 となると必然的に2と9はもう要らないということ？

【高山委員長】 では今は5ですけど3で良いんじゃないですか。

【B委員】

デイサービスは、そうですね。入院するほどでも無く、老人ホームに行くほどでも無く、自宅に居る人が家族では中々入浴とかの介護ができないからデイサービスに行ってお風呂に入れてもらおうと、そういう事ですね。

【C委員】

例えば、これは市が保有しているからデイサービスの利用料がメチャメチャ安いとか、そんなことがあるんですか。

【高山委員長】 利用料は一緒です。民間でも公営でも料金は変わらない。

【C委員】 そしたら、やはり市で保有する意味が分からないですね。

【B委員】 五箇山では民間が儲からないからやってくれない。

【C委員】 五箇山は（民間参入が困難ということは）分かります。

【B委員】

指定管理でやっても赤字ですから（受け手の）団体は非常に困っている。

【D委員】 これで市が持たない、となると破綻するのは目に見えている。

【B委員】

管理団体がバンザイすると、毎年 200～300 万円の指定管理料では運営できないからもう出来ませんというのが本音ですよ。元々（利用者の）数がないんだから。重病人になると病院に行くし、自宅で頑張るギリギリのところという所要介護は3くらい？

【高山委員長】 要介護3でも微妙かもしれないですね

【B委員】 3も微妙なら2くらい、となるとさらに数が限られてしまう。

【C委員】 利用者が少なくて事業所が多いということは減らせるということでは

【高山委員長】 減らすと遠いところの利用者にとって送迎にかかる負担が大きい。

【B委員】

平・上平はまとめられても利賀はどうか。全部送迎だから、どれくらいの距離までなら、移動時間を含めて我慢できるかということ

【C委員】 送迎してもらう人の体力的なこと出してくるということですね。

【高山委員長】 普通は片道で30分くらいですかね。

【D委員】 30分あれば南砺市全域を網羅できないですかね。

【E委員】 順番にひろっていったということもありますから。

【D委員】 単純に行って帰ってくる訳じゃないですね。

【C委員】 でもそれはバスの数が増えて送迎ルートを増やせばいいだけでは

【高山委員長】 ワンボックスカーで5人も10人もという訳にはいけないので

【D委員】

そこは市がうまい事して、小学校の子どもたちを降ろした後にデイサービスの高齢者を迎えに行って、高齢者を降ろした後に中学生とか、うまい事なるのか、そこはソフトの面で頑張ってもらうとかも考えて

【E委員】 車椅子の方も乗せないといけないから難しいんですよ。

【高山委員長】 車椅子を乗せないといけない利用者の方もおられますから

【C委員】

これも同じでサービスは必要だと思うんですよ。ただ、その保有を市でしなくてはいけないのかと言われると、そうでもないような気がしてしょうがないんです。

【B委員】

福光で見ても、金沢のデイサービスセンターがお客さん欲しいからって入り込んできて、営業をかけている。山越えていけば金大の近くに福祉ゾーンみたいのがあるんですよ。山側環状の方に大きい施設があって、そこから城端井波にも営業をかけているんです。

【E委員】 ますますこちらが赤字になっちゃうじゃないですか。

【B委員】 だから30分程度の移動は耐えられるということ

【D委員】 営業をかけられて行く人もいるのは、それだけサービスが良いから？

【C委員】 サービスが良いのか安いのか

【B委員】 もしくは（介護度が）重くてもやってくれるからとか

【C委員】 何かしらのメリットがあるからそちらに行くということですよ。

【B委員】

だから、車椅子の方でも片道30分くらいの送迎時間なら耐えられるということであれば、先ほどの小学校中学校と一緒に、次第に集約していくということにはなるよね。

【F委員】 集約はするけど市営でいくということですか。

【高山委員長】

最終的には民間で全部やれたら良いけど、成り立たないところがあるから、そこは市で運営せざるを得ないところがあると

【F委員】 先ほどの3つだけ

【B委員】

南砺市に限らず、これから団塊の世代が後期高齢者になって一時的には利用者が増える。それでも市は、デイサービスセンターを増築したり新築したりしないと昔から元々方針として決めている訳だから

【F委員】 3にするタイミングが30年後なのか10年後なのか

【B委員】

これから80歳以上の高齢者が増えていく訳だから、10年では減らせないでしょう。

【F委員】 でも、その時なら（利用者増で）民間でも経営できるかもしれない

【C委員】

逆に今なら、この10年間で民間の人が入ってきて、10年間で回収して、撤退すれば一番儲けられる。向こう10年くらいは、今なら儲かりますから皆さん来てくださいと言えるけど、その後は高齢者も減るので民間参入は難しい。民間は、稼いで帰れたら投資してくれるかもしれない訳ですから、むしろ今はビジネスチャンスの時期ですよ。

【B委員】 ここに城端でいう「きらら」とか「うらら」が入っていないのは

【森施設再編係長】 きらら・うららは市の所有物、施設では無いので入らないです。

【高山委員長】 純粹に民間の施設ということですね。

【C委員】

民間の老人ホームや高齢者福祉施設はいっぱいあって、そこがデイサービスもやっているの、市内でデイサービスがここ（資料中の施設）にしか無い訳でない。多分まだいっぱいあるんですよ。

【石崎行革・施設管理課長】

この資料以外にも民間のものはあります。資料中の平場のものは全て社会福祉法人が指定管理で運営されています。で、来年までの計画の中で（社会福祉法人への譲渡を）お願いしています。理事長が市長なので受けてくださいとお願いしているのですが、なかなか最終まではまとまっていないのが現実ですけど、一応そういう方向で進めています。

【高山委員長】 どうしますか。10年後はいくつ

【B委員】 耐用年数を考慮に入れながら 10 年 20 年で割ったらどうなります？

【C委員】 社会福祉法人が引き受けてくれたら市の施設では無くなりますよね。

【石崎行革・施設管理課長】 そうです。

【高山委員長】 そういう意味からしたら、もっと大胆に減らせるのかもしれない。

【C委員】 社会福祉法人はここにある施設を全部引き受けてくれるのですか。

【石崎行革・施設管理課長】 一応そういう話をしています。

【C委員】 じゃあ 0 ということも

【石崎行革・施設管理課長】

全部引き受けてくれるかどうかは分かりませんが、先ほど出た 3 つの施設を除いて全部受けてくださいということで話はしています。

【高山委員長】 それだと 10 年後 3 でもいけるじゃないですか。

【C委員】 この 3 も受けてくれるようにお話しされているのではないですか。

【石崎行革・施設管理課長】

それは指定管理の時もお断りされた経緯もあり、そこは厳しいものがあります。

【高山委員長】 でしたら 10 年後に 3 でよろしいですか。20 年後も 30 年後も 3 で。

【B委員】 10 年後に 3 までいっちゃうという意味？

【C委員】

来年もしかしたら受けてくれるかもしれないから、委員会としては、その交渉を頑張ってやってね、という意味で

【高山委員長】 その他の社会福祉施設も結構ありますね。

【C委員】 これはもう 0 という目標になっていて増やす訳にはいかないですよ。

【B委員】

要するに 0 というよりも、耐用年数が来たら更新するつもりは無いという事で 0 になっているんですよ。今すぐ潰すという事では無いと思う。

【C委員】 30 年後に耐用年数があるものが無いので 0 になっている。

【B委員】 問題は10年後いくつにするかということ。

【高山委員長】 耐用年数で考えると10年後に残るのは2つだから2、1、0です。

【C委員】 これは耐用年数どおりで良いと思います。

【高山委員長】 それでは、耐用年数どおり2、1、0でよろしいですかね。

【B委員】 最終的には複合化して必要な機能は多少残すと

【高山委員長】 保健センターはどうですか。

【B委員】

5番の福光保健センターは中央病院に入って、(1番の)城端はもう潰すんですよ。(2番の)平の状況はちょっとよく分からない。同じ頃に建てたのか。

【C委員】 1と5はもう無くなるんですか。

【B委員】 そうですね。もう完全に空き家状態になる。

【森施設再編係長】 3番も旧の井波保健センターなので

【C委員】 これも無くなる

【高山委員長】 これは、もう利用者も0で使っていないということですね。

【C委員】 残すとしている2つは2と4ですね。4というのは

【石崎行革・施設管理課長】

先ほどの福野の病院の中、1階の診療所の反対側に保健センターの機能があります。

【B委員】 これは残さないといけないの？

【石崎行革・施設管理課長】

残さないといけないと言われると、保健センターがいくつ必要かということで、大きなもので言えば、井波の地域包括ケアセンターにあり、南砺中央病院に入って、(平の)春光荘にもあります。

【高山委員長】 そう聞くと最終的に0で良いんじゃないですか。

【D委員】 平はどうなんですか。

【石崎行革・施設管理課長】 平は春光荘の中のものがそれになります。

【B委員】 複合施設の中に入っているから

【石崎行革・施設管理課長】 それがこれになります。

【C委員】 それぞれ（の地域）に保健センターの機能はあるんですね。

【石崎行革・施設管理課長】

というか、平の保健センターの機能、春光荘の分はこの中に載っています。平を残すとなると、これは残さないといけません。

【D委員】

平は残さないといけません。建物として機能を残すなら1で10年後からずっと1になりますね。

【B委員】 4番は要らないでしょう。

【石崎行革・施設管理課長】

今は、南砺中央病院と地域包括医療ケアセンターがあるという前提でということですのでよろしいですね。

【高山委員長】 次は診療所、医療センター

【C委員】 これは4か3？

【B委員】 南砺家庭・地域医療センターというのは、これ何？

【石崎行革・施設管理課長】 福野の病院です。

【B委員】

こんな鉄骨の建物を1/3に減らせとか、3階は潰してしまえとか言える訳じゃないし、もう使わなければ良いんでしょう？面積としては

【石崎行革・施設管理課長】

使わなくするか、社会福祉法人に建物ごと全部もらってくださいとお願いするのか、まあそれが一番理想なんです

【B委員】 なぜ社会福祉法人はあの建物を引き受けないの。

【石崎行革・施設管理課長】 診療所が入っているじゃないですか。

【B委員】 診療所分の家賃を市が払えば良いじゃないですか。

【石崎行革・施設管理課長】

（家賃を払うのは）全然OKなんです、それ以外の部分も含めて、なかなかまだ合

意には至っていないので、そういうことも考えていかないといけないのですが。

【D委員】

細かいことはアレですが、委員会の方針としては、今の話だと機能的には4番は要らないということですね。ただ、平・上平・利賀は人口が0にならない限りは（持たないといけない？）

【B委員】 医者が配置できる限りという部分もありますね

【C委員】 この3つが1個となると、通えない距離になるんですかね。

【D委員】 平と上平の診療所の距離ってどのくらいなんですかね。

【B委員】 上平は医者先生は常駐しているの？

【石崎行革・施設管理課長】 今は常駐じゃないはずです。

【B委員】 平の先生が行っている？

【高山委員長】 週間？日替わり？

【B委員】 平には若い本当に優秀な医者がありますよ

【石崎行革・施設管理課長】 毎日ではないはずですが、確認いたします。

【高山委員長】

富山県についてうちの大学では、医学類に地域枠というのがあって2人、富山県から出資を受けての特別枠定員があって、その枠で合格した者が医師国家試験を通ると、そういうところに何年間か赴任しなくちゃいけないという義務があって、そういう方が廻っていると思います。

【B委員】 利賀の医療センターというのは行政センターの中にある？

【森施設再編係長】 もう少し井波寄りにある別の施設です。

【D委員】 場所はどこでも良くて、利賀は必要なんですよ。

【E委員】 今の話でも、どれだけ不便かはお分かりいただけたと思います。

【C委員】 医療センターはどこかの施設に入ということも難しいんでしょ

【西村委員】

市役所（行政センター）の中にあるということのも無理なんですよ。単独でこの場所がないと都合が悪い、使いづらい？

ハコモノの論理で言うと機能は必要で、(診療所に限らず) 全てにおいて、機能を残すというのは大前提ですよね。

【B委員】 3つ(五箇山)の地域に機能は残す

【石崎行革・施設管理課長】

(行政センターと診療所が) 一緒の方が望ましいのだろうとは思いますが。住民票を取りに来て、診療所も近くにあるというのは良いと思いますが

【B委員】

だから、耐用年数が来たら行政センターとかの建物に入れば良い訳でしょう。

【石崎行革・施設管理課長】

それはその方が市民の利便性は上がると思います。ワンストップで何でも出来ると思いますので。

【B委員】 耐用年数がある間は3地域(五箇山)には診療所を残すと

【高山委員長】

そうすれば、一応10年後は3で、30年後は1になるけど、機能はそれぞれ持たせてくださいと、いうことでよろしいですかね。

【B委員】 しかも耐用年数を2割延ばせば、もう少しいくかもしれない。

【石崎行革・施設管理課長】 2割はあくまで計算上の数値なので

【D委員】

耐用年数を延ばすとなれば、実際は、それなりのお金がかかる。そういう経費がかからなければ耐用年数は延ばすと

【B委員】 春光荘の中に将来入ったらダメなの？有り得るでしょう？

【森施設再編係長】 不可能ではないと思います。

【石崎行革・施設管理課長】

入口を分けるというか、インフルエンザとか流行りの病気があるじゃないですか。伝染病対策として対応できるように出入り口は分けるなどしないといけない。

【C委員】 複合化できるなら施設の数是最終的には0にして

【B委員】 機能は他の施設に残すと

【高山委員長】

10年後3、20年後2、30年後に0で、施設としては0だけど、機能としては残すと

ということですね。

【B委員】 それが良いと思います。

【C委員】 防災センター、これは市が維持するということですから残すとして

【B委員】
消防（団）は、今一部で再編が言われている。

【柴市長政策部担当部長】

これは、資料に書いてある通り、分団組織の見直しにあわせて集約するということが良いかと思っています。

【B委員】 そうですね。書いてある通りで良いと思います。

【C委員】 その他行政系施設の移動通信基地局って何をするものなんですか？

【森施設再編係長】 携帯電話の中継基地局です。

【高山委員長】 市が所有しているのですか

【C委員】 ドコモとかauとかでやればいいんじゃないですか。

【高山委員長】 防災施設、防災無線の施設としてでもなく？

【C委員】 電波がないから、市で建てるので通してくれという

【柴市長政策部担当部長】

いわゆる絶対難視聴地域ということで、村の時にそういったものを建てて、携帯各社がアンテナを使わせてくれと、そんなようなパターンになっています。

【B委員】

でも、最近は民間が、市にお願いしなくても、自社の機種を売りたいから自分たちで建てているのではないですか。

【柴市長政策部担当部長】 たまたま、そういうかたちになっているということです。

【高山委員長】

携帯会社と包括連携を結んで、使える間は使うけど、使えなくなったらお願いねというふうに契約すれば良いじゃないですか。

【柴市長政策部担当部長】

将来的には衛星みたいなものを利用するようなかたちになっていくのだろうと思いますが、今しばらくの間は必要だということです。これが無いと（該当地域では）

携帯が使えませんので

【C委員】 地域包括ケアセンターも基地局（と同じ扱い）ですか。

【石崎行革・施設管理課長】 これは井波にある職員が入っている建物です。

【B委員】 その屋上に（アンテナが）あるということ？

【森施設再編係長】 その建物自体、事務所のことを言っています。

【高山委員長】 ケアセンターのことですから、これは要りますよね。

【C委員】 最終的に 30 年後には（ケアセンターのみ）1 ということですね。

【高山委員長】 次の市営住宅は難しいですね。

【石崎行革・施設管理課長】

前回ありました「公営住宅」の数ですが、人口あたりにいくつ必要とか、そういった決まりが無いので、これだけが妥当という数字をお示しできません。ですので、他の市町村ではこれくらいあるというものを参考にさせていただくために、これは戸数で資料に載せております。（資料 5①）市営住宅の欄の数の下に（ ）書きで、「公」は生活困窮者向けの部屋で、「他」というのは特定公共賃貸住宅などの民間アパート等と同じ一般の方向けの部屋になります。他の自治体と比較すると、南砺市は公営住宅が 402 戸ありますので、かなり多いのは多いですね。

【C委員】 「他」というのは全部民間に渡しても良いのですよね。

【高山委員長】 本来はそうですね。

【C委員】 お金を持っている人が入っているから利益は出ている訳ですもんね。

【F委員】 「公」と「他」というのは、こちらの表でも分かるように

【石崎行革・施設管理課長】

なかなか分からないですね。例えばクリゾンテム住宅のように、建物の中に「公」の部分もあれば「他」の部分もある施設がありますので、ここで（個別施設ごとに）戸数を決めるというのは、なかなか難しいです。

【高山委員長】 難しいですけど、耐用年数が来れば

【B委員】

少なくとも、耐用年数が近づいても大規模改修はしないと明言し、耐用年数が来たら新築はしない。でも最終的に 0 にするつもりも無いでしょう。

【高山委員長】 それはやはり公的な役割としてどれだけかは要るんですよ。

【C委員】

ただ、これだけ人口が減ってくると、そういう方々割合も減ってくるはずだから

【E委員】 それは、歳で区切ってというか、年齢でということですか。

【C委員】

年齢というか、公営住宅ばかり保有していて、（生活に）補助が必要な人ばかり移住して来られても困る訳ですよ。

【高山委員長】

ただ、市が建てた「公営住宅」でなくても、民間が建てたマンションやアパートを市が借り上げて、補助して「公営住宅」的に使うということの方が、臨機応変に需要に応じてコントロールしやすいので、ハコモノは耐用年数が来れば潰していくということが良いと思うんです。

【C委員】

そうですね。例えば空き家を持っていて管理できなくて困っている人と調整して、他の人に管理してもらうというかたちでも良い訳ですから

【石崎行革・施設管理課長】 都市計画にはこういった公営住宅の計画は無いです。

【高山委員長】

しかも、南砺市は圧倒的に戸数が多くてサービスしすぎだと思います。南砺市で生活に困っている人がこんなに多いとは思えないです。

【B委員】

合併前に各町村が所有していたものを、そのまま引きずっている関係もある。

【高山委員長】

だからこれだけあるので、これは耐用年数が来たら閉鎖していくというので良いのだと思いますよ。

【C委員】 増して戸数が4とか1とか7だとかいう小規模なものもあるし

【高山委員長】 しかも木造なんていうのは大体もう（要らなくなる）

【C委員】

大規模改修をせず、耐用年数が来たら閉鎖して、最終的に施設数は0にすると

【B委員】 行政の方でそういう数は計算できる？

【高山委員長】 30年後には耐用年数のある3だけが残る。

【石崎行革・施設管理課長】

数的にいくつかということは決めなければいけないと思っています。

【B委員】

集約が進んでいったら、ある時点で一つくらい新しいものを造らないと、この3つもいつかは朽ち果てていく訳だから、片方でどんどん減らしながら、ある一定の時に一つ新しいものを造って、そこに集約しながら

【D委員】

やり方としては、先ほどもあったように、誰かに造ってもらって補助だけ出して残すという方法とか、いくらでもあると思う。

【C委員】 サービスは必要だけど別に施設を保有しなくても良いと思う。

【B委員】

前回の雇用促進住宅の話ではないけど、5番の理休団地は結構新しく綺麗だから、こういう施設をそういうビジネスをしている業者に、今なら売れるのでは？耐用年数もあるし綺麗だし場所も良いし、民間で持っていたら相当

【C委員】 そうですね、それでほとんど満室稼働しているんじゃないですか

【高山委員長】 それもアリなんですよ。売れるものは売れたら良い。

【石崎行革・施設管理課長】

施設を減らしていく時に、どういう方法が良いのか、また考えていきます。

【B委員】

ただ、やはり市として持っていなくてはいけない、生活が苦しい人を助けるためのものは、どうしても必要だよ。そういうのはターゲットとしてこの中の

【D委員】

だから、それを合わせて言えば、市としてはこれだけを何十年間は借りるので買ってくださいという話。売る話になったらですが、それはお任せするので

【石崎行革・施設管理課長】

自分たちとしては、資料として十分では無いのですが、一体いくつくらいが必要かという（話を決めたい）。先ほど、人口に比例して（公営住宅が）必要な方は減っていくだろうという話があって、民間から借りるとしても、その時に民間の建物が無ければ借りようが無い訳で、100戸が必要だとして、その時に民間で全部借りられるかということ（危惧）もあります。

【D委員】

逆に30年経って耐用年数が残る施設が3つあるから3つ残しましょうとなっても、

1人か2人しか使っていないところを残す訳にはいかないという話になりかねない。

【石崎行革・施設管理課長】

逆に必要な方が300人いるのに（住宅が）見つからないというのも困る話

【D委員】 細かいことを言っていたら決められない

【C委員】

今までの話でいうと大枠としては、これ0でも良いんじゃないですか。耐用年数があるものは売れるかもしれないですし

【D委員】

大枠は0にして耐用年数があって売れそうなものは先に売って手放していくという計画も、あわせて、お願いします。

【高山委員長】 じゃ目標は0ですね。

【B委員】 いや、でも0というのは誤解されるんじゃないですか。

【森施設再編係長】 居住権もあり、簡単に出て行っていただく話とはなりません

【石崎行革・施設管理課長】 （移転先の）場所が決まらないと

【D委員】

例えば耐用年数が来ているから閉鎖しますと言っても、住み続けられてしまったら閉鎖はできない？

【高山委員長】

どこかに引き取ってもらうというのもあるんですよ。もしくは移ってもらうなりとなっても、市としては補償しないといけない。

【C委員】

居住権があるから「私はここに住み続けたい」という方には、協力いただけない訳だから、補助を打ち切ることも必要になってくるということですかね。

【石崎行革・施設管理課長】

生活弱者の方の公営住宅というのは、家賃の高い方の、特定公共賃貸住宅などとは違って、必ずどこか移るところを準備してあげないといけません。

【F委員】

民間のものを借り上げるという話も出ていますが、住宅とかアパートのようなものを、民間が建ててくれないような地域もあるじゃないですか。そんなようなところも移り住むところを考えないといけないということですか。それともエリアごと、あそこなら（近いから）と言って斡旋できるものなのですか。例えば山間部の公営住宅にお住

まいの方とか

【B委員】 山間部にも市営住宅はある？

【石崎行革・施設管理課長】 市営住宅はあります。

【F委員】

そこがもし、無くなるとなった時にエリアごと引っ越していただくというかたちなのか、そのエリア内で何か物件を斡旋するということなのか

【石崎行革・施設管理課長】

詳しいことは確認してみないと分かりませんが、とにかく移るところを準備してあげないと、それはダメということです。

【F委員】

じゃないと、そもそも無くす事が出来ないということですよね。どの程度移れるかによって今の（数の）話も変わってきますね。

【D委員】

サービスとして住むところが無いと、何か魅力が無いと南砺市に来ないので、安い住宅を用意してあるというのは非常に、その後の税収にも関わってきますので、そこだけですよね。住むところという意味では

【C委員】

市営住宅で補助が付いていない部屋は普通に（家賃が）高いですよね。そんなに民間と差が無いくらいで高いですよね。

【石崎行革・施設管理課長】

「他」というところはそんな感じですね。「公」という部分は、かなり安いです。で、そういったところをセーフティネットとしていくつ確保するのかということ、例えば400戸を300戸にするとか言っていただけと考えやすいかなと思います。

0と言われると本当に0で良いのかなとは思いますが。

【高山委員長】

公営住宅が0という訳にはいかないけど、特定公共賃貸住宅など、ここは無くてもしっかりと思うんです、基本としては。

【石崎行革・施設管理課長】 それはそうかと思います。

【高山委員長】

だから最終的には、今「他」の戸数が150戸もありますけど、これは0にする。それで後は、公営住宅の400戸という数をどこまで抑えていくかということを議論しないといけない。その時に目安になるのが類似都市の例えば湯沢だったら200くらいだし、氷見はすごく少ないんですよね（約90戸）。何でこんなに少ないんですかね。

【C委員】 建物は保有せずに民間アパート等を借り上げているかんじですかね。

【高山委員長】 それは公営住宅として入っているんじゃないですか。

【石崎行革・施設管理課長】

南砺市では今のところ、そういう事例は無いですけど、他市でそういったところがあればここには入ってきます。

【C委員】 氷見市はみんな裕福ということ？

【高山委員長】 そういうことになりますね。

【F委員】 この「公」の400戸は、全部埋まっているんでしょうか。

【石崎行革・施設管理課長】 埋まっています。公営は、ほぼ埋まるらしいです。

【高山委員長】

変な言い方ですが高齢者になってそこに入っていると中々出られなくなるんですよ。

【C委員】

それもありますし、例えば「公」に入ると安いので間違いなく、そちらを先に申し込む。で、外れた時に民間の方に行くというケースはある。ものとしては非常に、移住促進であったり、そういう部分には良い話だとは思うのですが

【高山委員長】

目標としては、例えば10年後に300、20年後200くらい、30年後も200くらいじゃないですかね。

【B委員】

移住定住の人、東京とかで狭苦しいマンションとかに住んでいたような人は、生活困窮者が入るような市営住宅には入らなくて、一戸建ての古民家の方が好まれるのではないかな。

【高山委員長】

はい、それでは今日は一応の目安を決めさせていただいたので、これでもう一度シミュレーションさせてもらってどうなるのか、少しご検討いただけたらと思います。

【C委員】

今回は、A・Bだったじゃないですか。C・Dは全部無くすという考え方でしたか。A・Bの残す優先度の高い方から検討して数を減らしてきましたが、C・Dがこの数(計画)を残していたら意味が無いような気がして、C・Dはどうされるのかなと

【石崎行革・施設管理課長】

C・D も次回、今日と同じような資料を提示させていただきます。

【C委員】

次で C・D について（数を）決めて、改修版でそれを、はい分かりました。

【石崎行革・施設管理課長】

今日の結果を踏まえて、再度シミュレーションしたら、どんな結果になるかということも、金額的に、何億円くらい減りましたということはお示ししたいなと。結構、学校・保育園でかなりの数が出ましたので、ちょっとそこら辺は見ていきたいなと、思います。

【高山委員長】 その他の部分で議事録についてとありますがこれは確認ですか。

【石崎行革・施設管理課長】 これは、開会前に確認いたしましたので大丈夫です。

【高山委員長】 では、その他のその他として何かございませんか。

【石崎行革・施設管理課長】 （施設の）数の確認だけさせてください。

【森施設再編係長】

それでは、本日議論いただきました内容について確認だけさせていただいて、次回報告させていただきたいと思います。

まず、小学校。10 年、20 年、30 年後の数字を読み上げさせていただきます。

小学校 8、6、4。中学校 6、4、2。保育園 11、7、6。庁舎は 1。児童館は 0 なのですが耐用年数到来と共に複合化。子育て支援センター7、4、4。その他子育て支援センター0。介護福祉施設 3、3、3。その他社会福祉施設 2、1、0 耐用年数到来と共に休止。保健センター1、1、1。診療所・医療センター3、3、3 で耐用年数到来と共に他施設と複合化。防災センター1。その他消防施設は、消防団組織の見直しに合わせて集約を進める。その他行政系施設は 1（ケアセンター）、基地局は民間への移行を検討。市営住宅は公営住宅の戸数で 300、200、200 で耐用年数到来と共に閉鎖していく。

ちょっと市営住宅が 300 とか 200 の戸数でうまくシミュレーションが出来るかどうか、調整してみます。

【高山委員長】

戸数はアレですが、棟数で大体決まってくるので、ピッタリにはならないかもしれないですけど目安ですので。

では、以上そういうことでお願いします。次回は 12 月 19 日(木)を予定しておりますので、よろしくお願いします。

【石崎行革・施設管理課長】

はい、今ほどは、ありがとうございました。次回、C と D のものについて今回と同じような資料を出させてもらいます。その上で最終的なシミュレーションをさせていただくということで、よろしくお願いいたします。

それでは、閉会にあたりまして柴担当部長からご挨拶をお願いします。

【柴市長政策部担当部長】

はい、皆さま方には長時間に渡りまして中身の濃い議論をしていただきましてありがとうございました。本日は現状にあわせた財政シミュレーションを改めてお示しさせていただきました。冒頭の高山委員長のご挨拶にもありましたように、やっぱり子どもそれから孫の世代にこういう状況を残さないということで、皆さま方には心苦しい中にも「数」というかたちでお示しいただきました。この数にあわせて再度、財政シミュレーションをさせていただいて 12 月 19 日の委員会で皆さんにまたご議論をいただきたいなと考えております。本日はどうもありがとうございました。

(閉会) 午前 11 時 47 分